



# 学校だより

第 12 号 ジャカルタ日本人学校  
令和 8 年(2026 年) 2 月 27 日  
発行:校長 成瀬 剛慈  
TEL : 021-745-4130

「世界にはばたけ JJS!」



4月スタートの学校にとっては年末にあたる3月を迎え、小学部6年生と中学部3年生は卒業という大きな節目を迎えます。また、3月には日本に帰国されるご家庭も多くなります。

今年度は小学部6年生の約1/3のご家庭が帰国されます。中学部3年生の卒業後の進路については、約80%の生徒が日本の高校へ進学し、約20%が海外の高校やインターナショナルスクールに進むこととなります。

日本では国際感覚を身につけた子どもを育成することの必要性が言われて久しいですが、その点 JJS の子どもたちは個人差こそあれ、自然に国際人としての素養が身につけているようです。

世界に羽ばたくために必要となる資質については、いろいろな場面で語られますが、次のような共通点があります。

## ① 柔軟性 異文化への適応力

教養としての幅広い知識、異文化についての理解を身につけて、他との差異に優劣をつけるのではなく、文化の相違点を興味深く感じ、尊重するマインドを持っていること。

## ② 日本人としてのアイデンティティの確立

自国について理解(歴史、文化、特色)を深め、他国の文化への敬意を持ちつつ、周囲に流されない自分らしさを持つこと。

## ③ コミュニケーション力

相手のことを知ろうとする好奇心に加え、自分の考えを、根拠を持って言語化することができる論理的思考力を身につけること。

さらに JJS の子どもたちには、次のステップが必要になると思います。それは、身につけた力をどのように、帰国した日本の周りの人に伝え、自分らしさに磨きをかけるかです。

これは書くのは簡単ですが、とても大切かつ困難な点だと思います。日本に住み日本のスタンダードに合わせることばかりに腐心してはせっかくの経験が生きないですし、だからといって、いわゆる「外国風」を吹かしては、周りから浮いてしまうだけです。つまり、優越感も劣等感もなく、自分が JJS で身につけた力を発揮するためには、経験してきたことに対する揺るぎない、等身大の「自分」を知り、それを強く持つ必要があると思います。

「自分」をしっかりと持たないと、適切な自己評価ができなくなり、「他人に認められたい」という思いが強すぎると、いつも周囲の目を気にするようになり、自分を見失いかねません。

その意味で、本当の意味の「自己肯定感」を持つためには、ジャカルタで蓄えた強みも弱みも含めた「ありのままの自分」を受け止めることが大切になります。

嬉しいことに中学部3年生へのアンケートでは、多くの生徒は「インドネシアのことを好きだ」という印象を持って帰国し、「将来海外で仕事をしたい」と希望する生徒もいるとのことでした。

『世界にはばたけ JJS!』

